

かつては時計台の中にあつた

札幌市中央図書館

市民の知恵袋、中央図書館の成り立ちを紹介し
ます。

中央図書館の歴史をひもとくと、明治三十二年（一八九九年）、北海道教育会が大通西四丁目に開設した図書館までさかのぼります。その後、移転を繰り返して、四十四年（一九一一年）には時計台の中に設置されることになりました。大正時代の新聞記事によると、一日に百数十人、吹雪の時でも九十人近い利用者が訪れたと書かれており、盛況ぶりがうかがえます。

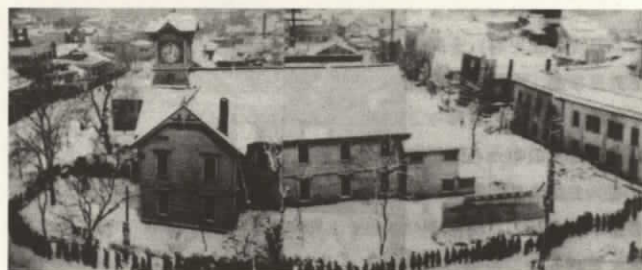
しかし、戦争が始まると、時計台が軍隊に接收されるなど、社会情勢の混乱にほんろうされて、休館に追い込まれます。教育会から引き継ぎ、ようやく市立札幌図書館として再出発することができたのは、昭和二十五年になってからです。三十年代に入ると、移動図書館車を導入して各地を巡回するなど、読書の普及に一層力を入れるようになります。

また、このころには、

進学熱の高まりから学生の利用者が増加し、学期末や受験期が迫った年末以降には、入館を待つ学生の長蛇の列が図書館を取り巻くこともあつたそうです。

このように年々高まつていった市民の読書需要にこたえるべく、四十一年には時計台を離れて、北二西十二の新館に移り、札幌市立図書館と改称することになりました。

それからは、市内各地で図書館の整備が進むにつれ、その中心的な役割を担う中央図書館へと発展していき、平成三年からは現在の場所（南二西一三）で多くの市民に親しまれています。



時計台時代、入館を待つ学生の列
（「札幌の図書館30年より」）